

答 辞

厳しい冬が終わりを告げ、暖かな春の訪れを感じるこの良き日に、このような卒業式を挙行していただき、ありがとうございます。

また、このような社会状況の中で卒業式を執り行えるように尽力してくださった先生方を始め、動画配信という形ではありますが今日まで私たちを支えてくださったご来賓の皆様、保護者の皆様に見守つていただき、厳かに卒業できることを卒業生一同を代表して厚く御礼申し上げます。

希望と不安を抱き、ここ蟻ヶ崎高校にやってきたあの日から早くも三年の月日が流れました。本日、卒業生279名は旅立ちの日を迎えます。入学してからの日々を思い返すと、私たちは学問だけではなく、様々な経験を通して、何物にも代えがたい思い出と共に成長してきました。クラス一丸となつて取り組んだがんが祭、クラスマッチ、合唱コンクールなどの行事や部活動、日常生活の中での経験が今日までの原動力となり、この三年間を走り抜くことができ

ました。

特に、高校三年生としての一年間は私たちを大きく成長させるものだつたと思います。振り返ると新型コロナウイルスの感染拡大によつて、中止となつてしまつた学校行事も多く、何度も悔しい思いをしました。そんな中で今までにない形での開催となつた第72回ぎんが祭は皆さんの記憶に新しいのではないでしようか。私自身、運営に携わる中で本当に全校が盛り上がることができると安心になるとともありました。しかし、当日は私の不安など吹き飛ぶような全校の盛り上がりや一体感に改めてぎんが祭の持つパワーと蟻高校の暖かさを実感しました。

そんな、かけがいのない友と出会い、思い出があふれる高校生活が、今日で終わつてしまつことが実感できまへん。これからも蟻ヶ崎高校に通うのではないであります。私たちの三年間は今日で終わります。私たちが高校生活を無事に終えることができるのは次山の支えがあつたからです。

校長先生を始めとする諸先生方、ご来賓の皆様、地

域の方々は、私たちを暖かくサポートし、導いてくださいました。友人、後輩たちは、日々の学校生活で様々に出来事を共にし、多くの思い出を作ることができました。ここに、改めて感謝申し上げます。そして何より家族は私たちのことを私たち以上に想い、一番に考え、心配しながらも応援してくれました。普段は照れくさくて言えませんが、家に帰つたら感謝を直接伝えたいと思います。

最後に、私から三年生へ。皆さんと過ごした三年間は長いようであつて、この間に過ぎていきました。私は皆さんのおかげでかけがいのない思い出を手にできました。この先の人生、何が起こるかなど誰にもわかりません。この一年だけでも、私は世の無常を痛感しました。しかし、見方を変えてみれば、この一年を走り抜くことができた私たちなら、どんなことがあろうと乗り越えることができるはずです。心が折れてしまいそうなときは、蟻ヶ崎高校での思い出が助けてくれるはずです。皆さんと出会い、今日という日を迎えてよかったですと心から思います。ありがとうございます。

う。

本日、卒業生279名は新たに一步を踏み出します。私たちは三年間で得たものを活かして、胸を張つて、これから的人生を歩んでいくことをここに誓います。先生方、保護者の皆様には、かくして生きてゆこうとする私たちを、どうか見守つていただきたく思います。

最後になりますが、蟻ヶ崎高校の益々のご発展と、私たちに関わつてくださつた全ての方々のご健康とご多幸を心より祈念申し上げ、答辞とさせていただきまます。

令和三年 三月四日

卒業生代表 小林達郎